



川崎市幼児環境教育プログラム




つながりたのしむ あそび集



～人と自然をしっかりとつなぐ環境教育をめざして～






♥ まえがき

人はだれかとつながりあうことで生きていく生き物です。家族のつながり、友だちどうしのつながり、そうした人と人とのつながりはとても大切です。そして、大切なのはそれだけではありません。人と人とのつながりと同じくらい大切なのは、私たちをとりまく「環境」や「自然」とのつながりです。私たちの毎日の生活は、自然とのつながりで成り立っています。しかし、自然とのつながりはあまりにも日常に溶け込んでいるために、その恵みに気づき、感謝する心を忘れがちになっています。そればかりか、人間だけが便利な生活を送ることを求めてきたために、私たちを支えている地球上の多くの木々や草花、動物、昆虫、鳥、魚、菌などのたくさんの生き物や、長い地球の歴史によって育てられた資源や自然の仕組みを大切に扱うことを忘れかけています。

この自然とのつながりをもう一度見直して、しっかり結びつける方法として「環境教育」があります。環境教育は「人」と「自然」をしっかりつなぐための教育＝「つながり教育」ともいえます。

教育基本法では、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」を教育の目標の1つに掲げています。また、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備によって、その振興に努めなければならない」ともしており、「教育」という視点からも、**幼稚園・保育所等において「環境教育」を行っていくことが重要**であると考えています。

子どもたちの心を育み、「自然が好き」という感覚を育むためには、保育者自身の自然観や保育観が根底になければなりません。そのため、保育者自らが自然に対して敏感になり、自然への愛情、自然を大切にする気持ちを持つことが重要です。子どもたちへの「環境教育」を実践するために、この「つながりたのしむあそび集」を日々の保育に役立てていただくことを願っています。



目次

まえがき	
つながりたのしむあそび集のねらい	1
ページの構成と説明	3
SDGs・ESDの視点を取り入れた環境教育とつながりたのしむあそび集	4
つながりたのしむあそび集に関連するSDGsの主なゴールとターゲット	5

自然現象編 ～自然現象をたのしむ～

光のあそび	6
風のあそび	7
雨のあそび	8
音のあそび	9
季節のあそび	10
打ち水大作戦	11

自然あそび編 ～自然をたのしむ～

自然のビンゴ	12
チクチク	15
たからもの探し	16
園庭の自然地図	18
自然レストラン	20
サウンドピカソ	22

自然あそび編 ～みどりをたのしむ～

葉っぱでじゃんけん	23
葉っぱくらべ	25
さいころ色あつめ	28
草花であそぼう	29
みどりでクラフト	31
クラスの木をかざろう	33
くんくん探偵団	34
プロペラ種とばし	35
お米を育てる	36
緑のカーテンを作ろう	38

自然あそび編 ～動物をたのしむ～

わたしはだれでしょう	40
動物パントマイム	42
カモフラージュ	44
みんなで生き物探し	45
生き物のおうちを作ろう	46
むしめがね探検隊	47
鳥のなきあわせ	49
食べ物の循環～微生物の土作り～	50

友だちあそび編 ～コミュニケーションをたのしむ～

氷の島	51
バランスあるき	53
みんなで作家	56

生活習慣編（家庭との連携）～ものをたのしむ～

3R大作戦	58
ふるしきラッピング	61
公園ありがとうの日	62
園内エコライフ	64

資料編

◎川崎市内の緑地や公園	65
◎川崎市内で見られる主な生き物	66
付録1 自然のビンゴ（ビンゴカードのひな型）	68
付録2 さいころ色あつめ（色さいころのひな型）	69
付録3 プロペラ種とばし（種プロペラのひな型）	70
付録4 むしめがね探検隊（むしめがねのひな型）	71
付録5 3R大作戦（リサイクルボックスのひな型）	72
付録6 みんなで生き物探し（生き物情報シート）	73
◎幼児期の環境教育に関する規定等	75
◎川崎市の環境教育・学習における幼児環境教育の推進	76
◎「つながりたのしむあそび集」作成までの経緯	77

● つながりたのしむあそび集のねらい

このあそび集では、あそびを通じて、幼稚園・保育所等で次のような活動が行われることをねらいとしています。

- 自然や環境を意識した保育の中に「環境教育」の要素を取り入れることで、**より豊かな保育を展開**する。
- **あそびを通じ、自然とのふれあいを深め**、自然の豊かさや仕組み、美しさなどに気づき、楽しむ。（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」参照）
- 継続して自然にふれることを重視して、**園庭や近所の公園等の身近な自然で遊ぶ**。

あそび集では、次の3つの「つながり」を大切にしています。

① 自然とのつながり

② 人とのつながり

③ ものとのつながり

特に、私たち社会全体を支える「①自然とのつながり」を重視しています。

～ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～

幼児教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に共通で示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として挙げられている10の姿の1つに、「**自然との関わり・生命尊重**」が挙げられています。

具体的な姿

自然に触れて感動する体験を通して、身近な事象への関心を高め、自然への愛情や畏敬の念を持ち、また、身近な動植物に大切に思う気持ちを持って関わる。

また、あそびを通じた「環境教育」に取り組み始めたら、次のような視点も取り入れてみましょう。

● あたりまえの活動にする

いろいろな種類のあそびに継続的に取り組むことで、環境教育の考え方が「**あたりまえの活動**」となるようにしましょう。

● 自分の生活を考えることと伝えること

保育者が環境や自然に関心がない中で、子どもたちに自然体験や幼児環境教育を行っても、形ばかりで意味がありません。幼児環境教育に取り組むことは、「一人の人間として自分の生活を考えること」と「保育者として子どもたちに伝えること」という二つの役割を担うこととなります。あそび集を通して、子どもたちと楽しみながら**自らの自然を見る目（自然観）を養っていきましょう**。





～ 「自然を見る目（自然観）」を養う～

自然とのふれあいを通して、豊かな人間性を養うとともに、自然を見る目（自然観）を培うことが大切です。

現代の豊かな消費経済は、豊かなもの、便利な生活を与えてくれる一方で、経済の基盤となる環境や自然と、わたしたちの生活、意識が離れてしまうことが懸念されます。

あそび集を通して、自然を見る目（自然観）を養っていきましょう。

つながりたのしむあそび集は、自然現象編、自然あそび編、友だちあそび編、生活習慣編（家庭との連携）で構成されています。各項目のねらいは次のとおりです。園内の活動に重点をおいてつくられています。園の環境や子どもの年齢に合わせ、創意工夫して組み立てて使ってください。

3つのつながり	あそびの対象	プログラムの項目	ねらい	環境教育の視点	
自然とのつながり 自然現象編 自然あそび編	自然現象 	自然現象をたのしむ	自然あそび編の前段階のあそびとして、太陽、雨、風など自然現象に五感でふれあい、その存在や私たちとのつながりに気づき、楽しむ。	存在 	自然物、自然現象への気づき
	生き物 	自然をたのしむ	自然全般とのあそびを通して、自然界に見られる様々な形や色の違い、自然界のつながりに気づき、楽しむ。	多様性 	色や形、大きさ、模様、香り、感触など、生き物の特徴の多様さ
		みどりをたのしむ	木々や草花とのあそびを通して、植物の生態の不思議さ、環境との関わりに気づき、楽しむ。	いのち 	命をつなぐ生き物の不思議さ、生き物の成長変化など生き物の生きる力
		動物をたのしむ	動物に関するあそびを通して、動物の姿や形、生態に気づき、楽しむ。	つながり 	捕食、食物連鎖、共生、生態系など生き物どうしの生存、共生のためのつながり合い
人とのつながり 友だちあそび編	人間 	コミュニケーションをたのしむ	友だちとの一緒のあそびを通して、環境教育にとって必要な協力や意思の伝達の大切さに気づき、楽しむ。	協調 	コミュニケーション、自己肯定、協力
ものとのつながり 生活習慣編	もの 	ものをたのしむ	ものに関わるあそびを通して、ものの大切さや「もったいない」の気持ちに気づき、楽しむ。	有限 	資源・エネルギーの有限さと循環

ページの構成と説明

雨のあそび

地球上に水が存在したからこそ、私たちの生命が誕生しました。日頃、私たちが一番身近に接する自然の水は雨かもしれません。ふ天候を悪くするものとして見られがちですが、私たち人間も含めて生き物は、この雨のおかげで生きています。意識的に雨と接して、雨や水とのつながりを感じてみましょう。

◎あそびの例

- 雨の音は何の音？
雨の音を聞いてみましょう。雨の音ってどんな音？言葉で表すことができるでしょうか？
- 雨水を飲むのはだれ？
雨水を必要としているのはだれでしょうか？木や草、花の他には何かあるでしょうか？園内を探してみましょう。
- 水たまり観察会
水たまりは不思議な鏡。何が映って見えるでしょうか？みんなで覗きこんでみましょう。
- 川をつくらう
園庭や公園に川を作ってみましょう。雨上がりになってきた水たまりを使って川のように水の流れを作ってみましょう。近くの川をイメージしながら作り、2本、3本の川を作ったりして水の流れを楽しみましょう。葉っぱを舟のように流しても楽しいですね。

コラム 雨水はどこへ？～地球上の水は永久循環

雨水はどこにいくのでしょうか？雨水は地面に浸透されるか、下水から川川に流れ去るにいき、蒸発して雲となって再び雨や雪などの形で私たちの所に降ってきます。大半の水は地球上の水は永久に循環しているということ。今ある水は蒸発がいた頃と同じ水です。この水を現代の私たち人間が汚染してしまうと、その後の水はどうなってしまうのか、考えてみましょう。

このあそびの対象 環境教育の視点

自然現象 行住

ねらい

- 雨にも色々な降り方があることに気づく。
- 雨水にまみれられている自然に気づく。

年齢	季節	場所
3歳～4歳～5歳	春・夏・秋・冬	園庭・公園

◎準備

準備物：短造紙程度の大きな紙、ペン

◎あそびかた

- 1) 大きな紙に園庭や公園の地図をかきます。(おまかにかいてあかぬい)
- 2) 園庭で生き物を探します。
- 3) お部屋に戻り、見つけた生き物の名前、数、見つけた場所の様子をイラストなどと一緒に園庭の地図にかきこみ、壁に貼ります。新しい生き物を見つけたら別紙などで名前を書いて、その数をかき加えていきます。季節ごとによって比べるとおもしろいかもしれません。

◎ふりかえり

何種類の生き物が見つかりましたか。また、見つけた生き物の種類によって暮らしている場所に違いがわかりますか。

◎発展・応用

- 季節によって、見つかる生き物も変わってくるかもしれません。季節を変えて取り組んでみましょう。
- 子どもたちと見つけた生き物の、「生き物情報シート」(付録P38)にかきこんで情報を付けてください。いただいた情報は、かわさき生き物マップ(電子版の生き物情報発信サイト)への掲載などに活用させていただきます。

こちらから投稿できます ▶▶▶

<https://kawasaki.geocioduid.jp/webgl/biodiversity.html>

かわさき生き物マップを見ると、園や公園の隅りにどのような生き物が暮らしているかがわかります。

このあそびの対象 環境教育の視点

生き物 多様性 いのち

ねらい

- 身近な動物や植物に関心を持つ。
- 生き物の種類や特徴、生息環境には色々あることに気づく。

年齢	季節	場所
3歳～4歳～5歳	春・夏・秋・冬	園庭・公園

◎留意事項

- 生き物は個人で取り扱わず、できるだけ自然の状態を観望しましょう。
- 公園など、場所によっては生き物の採取や捕獲が禁止されていることがあります。必ずその場所のマナーやルールを確認しましょう。
- 車やケガをしないよう、また、雨やトゲなどを身についた生き物にも注意しましょう。

コラム 生態系ピラミッド

「食う食われる」関係を積み上げた図が「生態系ピラミッド」です。生態系ピラミッドの中で、太陽のエネルギーを利用して有機物をつくる緑色植物を「生産者」と呼びます。生産者を食べるものを「第1次消費者」、第1次消費者を食べるものを「第2次消費者」、その次に「第3次消費者」と呼び、生態系から高次の段階へ上がっていきます。なお、ダンゴムシやミミズ等、死んだり枯れたりした動物を食べて分解し土に戻す生物を、「分解者」と呼びます。

みんなで生き物探し

園庭や公園で子どもたちと一緒に生き物探しをしてみましょう。園庭や公園の身近な生き物の種類や生息状況を把握したり、普段気づかぬ生き物の種類を把握したりすることができます。また、グループごとに分けて園庭の地図にイラストや写真などで生き物の情報を記録すれば、たくさん発見があるでしょう。

◎準備

準備物：短造紙程度の大きな紙、ペン

◎あそびかた

- 1) 大きな紙に園庭や公園の地図をかきます。(おまかにかいてあかぬい)
- 2) 園庭で生き物を探します。
- 3) お部屋に戻り、見つけた生き物の名前、数、見つけた場所の様子をイラストなどと一緒に園庭の地図にかきこみ、壁に貼ります。新しい生き物を見つけたら別紙などで名前を書いて、その数をかき加えていきます。季節ごとによって比べるとおもしろいかもしれません。

◎ふりかえり

何種類の生き物が見つかりましたか。また、見つけた生き物の種類によって暮らしている場所に違いがわかりますか。

◎発展・応用

- 季節によって、見つかる生き物も変わってくるかもしれません。季節を変えて取り組んでみましょう。
- 子どもたちと見つけた生き物の、「生き物情報シート」(付録P38)にかきこんで情報を付けてください。いただいた情報は、かわさき生き物マップ(電子版の生き物情報発信サイト)への掲載などに活用させていただきます。

こちらから投稿できます ▶▶▶

<https://kawasaki.geocioduid.jp/webgl/biodiversity.html>

かわさき生き物マップを見ると、園や公園の隅りにどのような生き物が暮らしているかがわかります。

このあそびの対象 環境教育の視点

生き物 多様性 いのち

ねらい

- 身近な動物や植物に関心を持つ。
- 生き物の種類や特徴、生息環境には色々あることに気づく。

年齢	季節	場所
3歳～4歳～5歳	春・夏・秋・冬	園庭・公園

◎留意事項

- 生き物は個人で取り扱わず、できるだけ自然の状態を観望しましょう。
- 公園など、場所によっては生き物の採取や捕獲が禁止されていることがあります。必ずその場所のマナーやルールを確認しましょう。
- 車やケガをしないよう、また、雨やトゲなどを身についた生き物にも注意しましょう。

コラム 生態系ピラミッド

「食う食われる」関係を積み上げた図が「生態系ピラミッド」です。生態系ピラミッドの中で、太陽のエネルギーを利用して有機物をつくる緑色植物を「生産者」と呼びます。生産者を食べるものを「第1次消費者」、第1次消費者を食べるものを「第2次消費者」、その次に「第3次消費者」と呼び、生態系から高次の段階へ上がっていきます。なお、ダンゴムシやミミズ等、死んだり枯れたりした動物を食べて分解し土に戻す生物を、「分解者」と呼びます。

自然現象編

1 ねらい・あそびの対象・環境教育の視点

このページのあそびのねらいとあそびの対象が書かれています。環境教育やSDGsの視点もあわせて確認してください。

2 年齢・季節・場所

このページのあそびを行う際の対象年齢、季節、場所の目安です。参考にしてください。

3 あそびの例

この項目のねらいに沿ったあそびの具体例です。

自然あそび編・友だちあそび編・生活習慣編

1 ねらい・あそびの対象・環境教育の視点

このページのあそびのねらいとあそびの対象が書かれています。環境教育やSDGsの視点もあわせて確認してください。

2 年齢・季節・場所

このページのあそびを行う際の対象年齢、季節、場所の目安です。参考にしてください。

3 準備、あそびかた、ふりかえり、発展・応用、留意点

あそびを行う際の準備物や、あそびかた、ふりかえりや応用方法、留意点が書かれています。

4 コラム

そのあそびの背景にある自然環境の仕組みや身近な生き物の不思議さ、変化などの解説です。あらかじめこの解説を読み、**1ねらい**と併せて理解してください。必ずしも子どもたちに伝える必要はありませんが、自然とのつながりを深めるヒントとしてお使いください。

3

SDGs・ESDの視点を取り入れた環境教育とつながりたのしむあそび集

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、「誰ひとり取り残さない」ことを誓って、2015年の国連サミットにおいて、2030年までに達成すべき17のゴールと169のターゲットから構成される目標を立てました。それが「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: **SDGs**)」です。

一方、一人ひとりが世界の人々や世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育が「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development) **ESD**です。地球上の生き物が遠い未来まで住み続けていけるよう、世界中で起こっている様々な課題について、自らの問題としてできることを考え、実践していくことを身につけることで、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会の創造を目指す「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」です。

SDGsにおいて、教育は目標4に位置付けられており、ESDはターゲットの1つとして位置付けられているだけでなく、17の全ての目標の実現に寄与し、SDGs達成のカギであるとされています。








出典：「ESD推進の手引き」(令和3年5月改訂日本ユネスコ国内委員会)

つながりたのしむあそび集は、「持続可能な社会」の実現に向け、私たち人間が地球上の全ての生き物と一緒に仲良く生きていくためのプログラムです。ひとつひとつのあそびが、SDGsのゴールにつながっています。幼稚園・保育所等において、体験活動(あそび)を重視し、この「つながりたのしむあそび集」を通じた環境教育に取り組み、**自然とのふれあいを通じた感性の育成を行う**ことが、SDGsやESDの取組につながります。

- 「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちがである事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

(「sense of wonder」レイチェル・カーソン)

つながりたのしむあそび集に関連するSDGsの主なゴールとターゲット

アイコン	ゴール	ターゲット	
		要約	内容 (全文)
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p><質の高い教育をみんなに> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	4.7	<p>教育を通して持続可能な開発に必要な知識・技能を得られるようにする</p> <p>2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p><住み続けられるまちづくりを> 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	11.7	<p>緑地や公共スペースへのアクセスを提供する</p> <p>2030年までに、女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。</p>
 <p>12 つくる責任つかう責任</p>	<p><つくる責任つかう責任> 持続可能な生産消費形態を確保する</p>	12.8	<p>持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と知識を持つようにする</p> <p>2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p>
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p><陸の豊かさも守ろう> 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>	15.1	<p>陸域・内陸淡水生態系及びそのサービスの保全・回復・持続可能な利用を確保する</p> <p>2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、及び持続可能な利用を確保する。</p>
 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p><パートナーシップで目標を達成しよう> 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>	17.17	<p>効果的な公的・官民・市民社会のパートナーシップを推進する</p> <p>さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

出典：環境省作成「SDGs活用ガイド」

このほかSDGsの17のゴール・169のターゲットは
 こちらからご覧ください。➡

<https://www.ungcjin.org/sdgs/goals/index.html>

